

◎ 地域づくりの点から、地域に起こった変化（アウトカム）

<p>地域主導で新たな検討組織を設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各集落全ての役員が交代し、サポートチーム活動の引継ぎがうまく行かなかったことや、活動への理解が不十分なこともあり、活動が一時停滞した。 地域自らが地区の将来に危機感を持ち、課題・目的の再認識に向けて話し合いを重ねた。 検討組織を見直し、新たに検討委員会を設置した。 	
<p>地域主導で話し合いを重ね、未来を描く体制ができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを継続するため、令和3年度末までの任期で各集落、NPO法人みずほっと、瑞穂協議会から委員を選出し、地域の未来を描く体制を地域主導で作った。 検討委員会の座長や協議会への提案も委員が行うなど、自主的に活動に参加することで地域の課題や一員としての意識が深まった。 	
<p>検討委員会で作成した協議会への提案の実現に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会では様々な意見が出される。集落により実情が異なり、現時点での実行が難しい事項もある。 未来を思い描いた提案について今はできなくても、振り返り、将来に実現できるように、委員の総意により提案書を作成した。 	

◎ 次年度以降、地域の取組について（取組の展望、進展に向けた課題、地域振興局のフォロー等）

<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会の任期（令和4年3月31日）終了後も地域の実現ビジョン「持続可能な地域を作るための組織づくり」活動の継続が必要。 →協議会への提案内容の「実行」や「振り返り」を行う体制が必要。 瑞穂協議会では検討内容の実現に向けて、「活動を検証する組織」の設置を検討している。 →年度末の理事会で提案する予定。 	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--